

# 第10章 学習者コーパスを 使った事例研究

7413104

言語文化学部 マレーシア語科3年

山崎 加奈

# 目次

1. 学習者コーパスの概要
2. 海外での事例研究
  - 2.1 強意の副詞と形容詞のコロケーション
  - 2.2 話し言葉におけるチャンク
  - 2.3 書き言葉における助動詞の使用傾向の比較
3. 国内での事例研究
  - 3.1 学習者によるbecauseの使用傾向
  - 3.2 n-gramを用いたチャンクの抽出
  - 3.3 学習者と母語話者の作文を区別する要因
4. 学習者コーパスを用いた調査の課題と留意点
5. おわりに

# 1. 学習者コーパスの概要

- 学習者が使用したことばの特徴や傾向を観察できる

## 学習者コーパス分析の種類

- 1つの学習者コーパスだけ进行分析
  - 学習者の傾向を観察
- 2つ以上のコーパス(英語母語話者コーパスと学習者コーパス)を比較
  - 学習者の特徴がより明確に

## 2. 海外での事例研究

### 2.1 強意の副詞と形容詞のコロケーション

#### ①研究概要

- Granger(1998)
- ICLEの中のフランス人英語学習者コーパスと英語母語話者コーパスを比較

\* ICLE(The International Corpus of Learner English)

…日本を含めた16か国の学習者が書いた作文データ

## 2. 海外での事例研究

### 2.1 強意の副詞と形容詞のコロケーション

#### ②分析結果

- 強意の副詞は、学習者の使用頻度が低い
- 単語によって、学習者の使用頻度が異なる

#### ③指導への応用

- 各形容詞には相性のいい副詞が存在することを意識させる
- Oxford Collocations Dictionary (コロケーション辞典) やCOCAの利用  
→ALTに頼らなくても生徒の英作文を添削可能

## 2. 海外での事例研究

### 2.2 話し言葉におけるチャンク

#### ①研究概要

- De Cock et al.(1998)
- フランス語を母語とする上級レベル英語学習者の話し言葉コーパスと、英語母語話者の話し言葉コーパスを比較

#### ②分析結果

- 母語話者も学習者も、チャンクの使用頻度は同じ
- 上級レベルの学習者でも、使用するチャンクが母語話者と異なる
- 学習者はつなぎ言葉をあまり使えない

#### ③指導への応用

- IMBD(映画情報データベース)の活用

## 2. 海外での事例研究

### 2.3 書き言葉における助動詞の使用傾向の比較

#### ①研究概要

- Aijmer (2002)
- 英語母語話者コーパスと、スウェーデン語、フランス語、ドイツ語を母語とする英語学習者コーパスを比較

#### ②分析結果

- 学習者は助動詞を過剰使用している

#### ③指導への応用

- 話し言葉と書き言葉を区別させる
- コロケーションという大きな単位で学ばせる

# 3. 国内での事例研究

## 3.1 学習者によるbecauseの使用傾向

### ①研究概要

- 小林(2009)
- JEFLE Corpusと、ICLE-JP(日本人大学生のデータ)

### ②分析結果

- 学年が低いほど、becauseを過剰使用
- 文頭で多く使用し、そのほとんどが断片文
- →母語の影響、文体の混在、教材の影響

### ③指導への応用

- 接続詞の使用について、基本的な用法をより慎重に指導する

# 3. 国内での事例研究

## 3.2 n-gramを用いたチャンクの抽出

### ①研究概要

- 阪上・小泉(2008)
- 学習者コーパスNICEと、英語母語話者コーパスANC, BNCを比較

### ②分析結果

- 学習者は、一人称を主語として話を始める傾向にある
- 前置詞句や数を示すチャンクを十分に産出できない

### ③指導への応用

- 無生物主語構文の使用を促す
- 前置詞句や数を示すチャンクに特化したタスクを行う
- n-gram表現のリストの活用

# 3. 国内での事例研究

## 3.3 学習者と母語話者の作文を区別する要因

### ①研究概要

- Sugiura et al. (2007)
- NICE (Nagoya Interlanguage Corpus of English)

### ②分析結果

- 「異なり語数」が大きく影響

### ③指導への応用

- 類語辞典の活用
- 単語の種類豊富さを、作文課題の評価基準のひとつにする

# 4. 学習者コーパスを用いた調査の課題と留意点

## 4.1 データの規模

- 学習者コーパスの規模を大きくすることは困難
- 英作文データを電子化、学生へフィードバック

## 4.2 意味や誤り分析の難しさ

- 機械的に処理するため、意味解釈がおろそかになってしまう
- 教師自身が注意してデータ観察をすることが必要

## 4.3 データ処理のための知識と技量

- 言語に関する知識だけでなく、技術的な知識と技術が必要

## 5 おわりに

- 母語話者だけでなく、学習者もコロケーションを使用している
- 客観的数値データを得られるため、コーパスは有用